夫木和歌抄

壱中二十

利4
1765
20

門へ利4
編巻 1665
80

137

出入二 出七六
五二

1

904

文永和歌抄巻第二十

雜部二

山

部

改頁

905

宝玲文庫

分山

天つ雲暮山遠　千里

天津空たくもれつゝみさつまいくれ初しを月をくそ風

百首内十

後九条内大臣

日うの恋いつあのうへ月のうつるかなるれや名をのこしてみる河

二秋百首内十

後京極摂政

消ぬるふるさとの野ひなをもとめ深草もとり

六帖部

光俊朝臣

ちくけのうすもそよいぬ山平ちくひとりいもとこひ

千首十

琴々内家卿

宝玲文庫 熊坂村

あ[illegible]のれの[illegible]の橋[illegible]ら[illegible]まつ[illegible]ひ[illegible]松の[illegible]ま[illegible]ふ[illegible]

寛元元年如法入内侍門

太政大臣家歌合

足引の山ひこそのいとしあるものゆゑ[illegible]

冬四十中

[illegible]きの[illegible]歌の[illegible]色[illegible]て[illegible]和山の[illegible]雪[illegible]

亀山院御製

百首歌

前中納言為家

[illegible]

同

[illegible]

ゆふ山[illegible]元[illegible]年百首　入道前太政大臣　松

今[illegible]の[illegible]色[illegible]て[illegible]山[illegible]の[illegible]

祐[illegible]山永[illegible]年十二月太神宮奉合歌

[illegible]人ふ和

[illegible]山の[illegible]

文[illegible]元年七社百首　[illegible]卿

[illegible]祐[illegible]山の[illegible]

[illegible]年[illegible]亀山[illegible]十首[illegible]

亀山院御製

[illegible]の[illegible]

907

社頭山國分の親王家賀文和尼
[illegible]
[illegible]
[illegible]五年[illegible]鶴社十首[illegible]

第國分雅[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

大[illegible]

百首哥

[illegible]
[illegible]
[illegible]

雲の山

大井河あらしふきとぶぬれいそぎるる山のもみぢ

伝覚法師

山寺判[illegible]清輔朝臣[illegible]
[illegible]大井河の[illegible]
[illegible]
[illegible]

クメ[illegible]の山[illegible]三年歌合[illegible]

歌合

明[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]の山の[illegible]

久方の山遠く八年[illegible]月所

お中納言家歌

秋とく八月のこちとふく風のひさしさ

まさこ山院摂政百首月

[illegible]卿

秋の世のかたのもとの山のよいころの月のかげ

[illegible]山家千百首

同

あかれとうきひの山代つきとうの富士のうるはしさ

こころの山 山家の民 自空法師

[illegible]の八重こころ奥ふかくの山のかをとうたへ

後のすそ山家集中 西行法師

河あひのもとそ山のつくそ[illegible]へいるよすし

こころ山部ふ名 長歌王 佐伯[illegible]

思ふのこころ山をこころのてなさいなくたちよ

いそ山 よさ人さうた

文安万吉

いそ山のやうやうのいそひつひのもれたえ

[illegible]

[illegible]

いそ山のこまぶのもうれぬてやひよさ人あ[illegible]

すゑの山院摂政百首

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

百首の

為兼卿

洞院摂政家百首　前中納言定家卿

雪の間のうめさく花とみる俤の山の雪もしろし

摂大納言実房卿

いこま山松の白雪ちりのこるさくらの花の色ぞかはらん

山寺桜

ちりのこるまつとはなしに春ふかみたえぬ雪とのみ花の散るかな

為家卿

俤遠二年九月内裏歌合山月　　藤原為家

生駒山こずえのつきを猶といふて谷のそこにはつきのすむらん

永久四年百首　　源兼昌

いこまやまこずえのつきやこのさとをよいてしらせて秋さてり

新古今中　　藤原定家朝臣

秋さらば俤の山のおもかげとさくらの花の色ぞかはらん

六

新古今

秋さらばいこまの山の花ぞ色ぬるさくらの花のこずえ

盤面防

いこまの山　　よみ人しらず

万七

[illegible]ん日[illegible]向[illegible]

[illegible]

[illegible]

中務[illegible]

[illegible]

右京[illegible]

[illegible]

[illegible]

五九

時鳥

いとこ山をはなれて時鳥のこゑ聞ばかりの心地する　　金村

五八

いとこ山野へよ咲らん萩の花　尾花をそふ

同院摂政

五七

あふさかの関のあれるこのいとこ山　いとこ山ふきもらす色の風

蘆

いとこの山の葉

摂政関白

蘆

かりの風のいとこの山のみるこゑのかりてうれい布引のさき

左大臣

百首六

蘆

蘆の風はいとこの山のうへよりある院のたゝ系てとうん

いもせの山妹背の紀伊　　金村

とゝれかてこひつゝあるすゝきの間のつゝとすの心よあるまものと

五七

すのやまたゝよもむかへらいもせのやまこと同

妹背

読人不知

五七

人をゝはおもはのもるこゝてあるとゝひとのはつゝのうゝ世の山

親　同　橋　同　同　妹の山

五三

橋のゝふ代ゝるゝ世のゝふのゝ代のくすて親ゝゆけいるのくしゝ

いもせ山月傳ふの遠保三年名所百首

ゝのふゝ色ゝ橋のゝのゝ岩に寄ゝたゝゝるゝゝの山と花の白雪

第中納言定家

月

秋の月のいもせのゝ峯の月ゝ山ゝ吹ゝ色の月ゝ心ゝ色ゝ花のゝれ

後二位中將

同

いそのかみ山雪の松のしらさしてもとれてむすぶ雲たちそうる勝の月

宗藤四天王院名所歌合

岩の雲すそ[illegible]の[illegible]ひとつ[illegible]いるとのいそのかみ山

従二位行家卿

建保三年名所百首

従二位行家

久しくひさすやうつもさのさしもとかすみのゆるいつ[illegible]

同

あか中納言定家卿

同

秋とやくもるそらのゆういつもさしてひさしさ下の思ひ

正三位定家卿

木すゑをすていつもさのしらさしもとつ秋のくもゆん

同

有家朝臣

明すそ[illegible]いつもさ[illegible]山のそ[illegible]ひてい[illegible]の[illegible]の[illegible]

いもせの山たわ

重家卿

[illegible]立[illegible]合歌

従二位[illegible]

つもりをもつ[illegible]れ[illegible]歌いもせの山のくもの[illegible]

いそのの山を数[illegible]

大嘗会悠紀方四屏風已日

[illegible]入[illegible]

[illegible]

[illegible]

914

あさくさの山のこのしたかくれいて
いくよのやまの松の緑を
天仁大年間 近江国石根山 前中納言通宗卿
新千載賀
いくよかはあはれとぞ思ふたかくれゆくしたもしらでしぬる
いかしらの山を正応大年云
武家貞宣
かくれゆくたれよりいかしらの山のしたもとはいかにあひみや
いかしらの山 俗名 前中納言 藤原為氏卿
ゆくすゑの人をこそ思ふ高砂の
源為隆
いかしらの山 白河関 大和
ふるれいかしらの山のゆくすゑ
ふくとの人

前中

秋なれいかしらの山のこのしたもとはかくれぬる
いくよの山 鄙中 情中 同
百十
六帖二
ちくはらいたくもかくれぬるかはよりこのしたもとはいかにあひみん
いかしらの山 大和 前 寛治二年一首
藤中納言定嗣卿
久方の月のかつらのいくよのやまのこのしたかくれいかにあひみん
いたちさの山 常陸 或本 伊勢 藤原為忠
ふるさと人をこそ
みちのくのちかさいてくのいたちさの山のこのしたかくれにしを
いくその山 陸奥 歌集 西三位知家卿

915

[illegible]

いそのやま　信濃　作者情中納言

[illegible]

いそのやま　金葉集　俊頼朝臣

[illegible]

万代　白妙

いぬひの山　大納言　永仁大嘗会

前中納言俊忠

[illegible]

のとイ

いそのやま　百首　山城　近江

[illegible]

[illegible]

曽丹集

いそのやま　[illegible]

正徳大嘗会

[illegible]

いそのやま　百首　為家　資宣

[illegible]

いそのやま　百首　九条内大臣百首

左近中将具氏

[illegible]

大嘗会豆奏方の石橋山を

[illegible]

鶴

[illegible]

[illegible]

いとうけ山　四条前内大臣家集　樹陰卯花

皇太后宮大夫俊成卿

家中　為之　いあつれ　哀とて　照日うすきいとうけ山　やま　よさるうのむ

やまる山天仁元大嘗会　前中納言通房卿

幣のとる名やさる山の木ぬれやうひゆ〜〜のやとりうつらん

いとう山　糸賀　紀伊

法性寺入道関白

嘉元の　やま　いとう山　ふるのうすうすにしたてむすつらん　五百　こと

いとう山　親宗　宰相中将公房卿

花縄

かさうつ〜〜にしのうつるあつ雪よりうつる雪よりいとうつれ

いとう山　紀貫之　みはた　家集　拾遺

いつさ山　嶮　やまいはなつ　うさ〜〜いたなつよるれやみち〜雪よりいやうつれ

建保四年百首　為家　おとの納言

年ふるとかりしんもつ　ま　ゆきいつるさの山　やま　ぬ雪のこのあり　ひ　家集

鴨長明

あつさうつるさのまつ　桜　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

安法法師

いとう山　家集

家　いけの面のようけとうつ　せ　はいるり山　こつのれるさよるさや　立　ら

家集　いとりよ　ま　てさうよ　ゆのりてよ　ゆ

元真

916

いまの山やまもさかぬひまもなくひあけて春さへかけよるくもの

くもの山 摂津 建長八年百首会合

源兼氏朝臣

ほとゝぎすくもの山のうちもうらめくつと拾行てもとみてちるらむ

いさのの山 伊勢 左兵衛督

同

新六十五

霞ゐんいさめの山のさくらもいまをさかりとたちへさつとも

いなもと山 摂津 藤原経平朝臣

建長四年十一月源経仲朝臣

源兼氏朝臣

いなもと山こゝろひの月のさやけさは雲のあるまもなくすれ

地

いなもひの山 四条西 永文三年十一月六郎文経宴奇

よもすがら

祝

合祝

春代いちゝせよいちとうすのいさめの山とやうんとさかて

いちゝろ山 紀伊 西のよもすがらとさ

平忠盛朝臣

神もみまつよろこやつらんいそろ山よろくれてきた

つ山ゑと幸毎日三中

藤原為家卿

わひすさ花のさうよろこつるかつの山の春月け

いそ山 左兵衛督 近代

合 恒京極摂政

うちもの山のいそ山の山もの

やまの

やま

こゝろ

ゝ

いなとこ山 校合相模国名所旧跡中 紀行紀方位屏風

第中納言道房卿

あしがらのいなとこ山の峯まもりて色ぬめるうるはしの
そこなしの山 相模国 詞 ようこそ人ふるさと

方面 箱根
箱根のそこなしの山よりあれ出て栗まの西にてみとはるるとあるはるとあやし

方十四
足柄のそこなしの山よりいくとのひるいとりねたるとあり

藤原為家卿

そこなし山すみすゑもまもるやそうんかの雲はしるらし

法勝院の河百首

ちるさくらとうんのと紅葉はいあくれいとりる玉藻の雲

藤原為家卿

真恵三年百首

そこなし山のそこの里よりあとへくれぬといそぐ夕ひと

藤原為家卿

法勝院の河百首

ちるさくらとうんのと紅葉はいあくれいとりる玉藻の雲

藤原為家卿

真恵三年百首

そこなし山のそこの里よりあとへくれぬといそぐ夕ひと

藤原為家卿

法勝院の河百首

ちるさくらとうんのと紅葉はいあくれいとりる玉藻の雲

藤原為家卿

真恵三年百首

そこなし山のそこの里よりあとへくれぬといそぐ夕ひと

藤原為家卿

二字下

路次記云 ちるさくらとうんのと紅葉はいあくれいとりる玉藻の雲

919

[illegible]

[illegible]

[illegible]

文永三年毎日一首中　藤原為家卿

[illegible]

遠信四季百首

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あさゆふ[村]とりいそぐこのもしの[鳥]とつたへしらるのをの山さとやしゆん

ゝきの山さとの山ぢ[恋]ゆ[歌]ゑ[家]ゆ[四]ゑ[名]ゆ[合]

西行法師

白雪のふる[降]の山ぢ[道]をよ[夜]きこゝろ[心]はこれ[此]ぞ[ぞ]ゝ[ゝ]ゝ[ゝ]

同

ちりぬ[散]べきこゝ[此]のは[葉]をよいつ[いつ]れ[れ]やり[やり]ぬ[ぬ]れ[れ]ぬ[ぬ]れ[れ]ぬ[ぬ]れ[れ

日前社

中納言のこと

みつの山あらしの音にたちそへぬ松をもかをる
みひたち山 常陸国 藤の花 後二位亮俊定

ほとけやこゝはいるやとうんまひたちいらるゝの松はなをすゝ
まくへとこと

五七

みかさやまの月をはつるまくまてへはこゝろをとゝ
かゝとの山 建長七年 歌合々歌 寄月

源仲業

ゝとそいく代をうりぬ人のあとをうらのこの山
ゝの山 多武峯 歌合 寄月

五八

あかつきのゝ山ゝのいはゝしのあけぬ
ゝの山 紀伊国 歌合 月

五九

ゝの山 山城 歌合

六〇

ゝの月ゝの山松のまゝつてそをもるこの月
義久の母尼 百首 後九条内大臣

六一

ゝのまゝにみをあひゝぬゝゝにはゝるゝ
ゝの山 磯波 内大臣 百々内家卿

ゝれゝの山ゝひゝゝてゝゝ
長歌

六九

ゝさゝりゝれはゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝ

922

あけたてハ松のさ枝よりメさんハ月よりもひて

なにはづ三百ちく首中　好忠

きぬぎぬやくらうつ〳〵の萩ゝとゝ秋ハ来ぬるかなとゝ

ゝさの山　山城　八幡陽明の高の彼乃りゝ人

陽明右大臣

ゝさの山ゝけとゝ[つ]ゝ[ま]ゝ[る]ゝ井の水のゝ[流]ゝれゝ[る]ゝ

ゝ[ま]ゝ[つ]ゝ

永久三年十二月廿五日内裏歌合

濃人　月知

高砂代いゝ[つ]ゝ[ま]ゝ[ま]ゝ[つ]ゝ[ま]ゝ[ま]ゝ[つ]ゝ

源兼盛

千五百番歌合　能酬入道太政大臣

ゝ[ま]ゝ[つ]ゝ[ま]ゝ[つ]ゝ[ま]ゝ[つ]

923

[illegible]

[illegible]

[illegible]

924

[illegible]

[illegible]

[illegible]

おとこやまの山ぶきやちらしあらてのこる森のあひさかり

同　おとこやまの山ぶき河ぞい　法皇院中宮上総

ちりのこるおとこやまの山ぶきはたすきかけてやまあらしかな

おとこやま　山城　家集　伊勢

おとこやまの木のしたかけのみちをれてせをあらそふさくら

法皇院摂政百首　光俊卿

おとこやまくもゐはひさしきの月をいさよふ雲のうへかな

春景歌　房

一字抄　鶯　鵑

おとこやますそ野の里よりやまさくらとをせ

小倉山　遠忠八年百首の合

[illegible]

後二位行家卿

家集

小倉山ふりにしたにはちるもの河瀬のつよさうもれぬ

光俊卿

法皇院摂政百首流　同

[illegible]代いにしへの山の桜ぞの春さすはなのとをいきた

[illegible]

[illegible]

寛永元年　廿八日　[illegible]

氏[illegible]

行すまもちの社とやとしわ山ねの里の松もりのこゑ

とゝす山小倉山嵐吉七年歌合百首寄

武山花

文治歌合

とゝす山花色もうつろひぬるかの神のはくりそうん

大炎上前右兵衛督家合　よしつね

雪とゝれぬ小倉の山ねこゑもうつろふ色にうつりまさる

鶯のみこ

郭公和

とゝす山とゝれなすこゑの月けよあしのうら波をやりひこをれ

ほとゝす　嘉応二年二位花合

行すとゝす山　嘉応二年花合

西三位知盛卿

源義昌

日

数

ねなすてとゝろかふつりぬれとゝす山れひとゝぬなくあれをちん

永久四年百首　右衛門督

やま

男ふしのさとゝよりひとのうきしの花ゝさとゝてそうる

奥風

をくら家集

やとゝふしのもとゝ家集

とりてそえゆう家集

第六信西隆寺

とゝみくいはとゝのよみて　三度下

ゝ　四方ゝいみれ八年　鶯聖よまうて　伯ゝうよ

三字下

の門のかりをとゝ和り給とて男山をうつ
みて給ふれいはあるとゝ
をとゝれ山ゝ弘永百二年五月修理仁家合
部云
賀茂重保
ほゝゝきたにゝ尋ねさあれいとゝゝをとゝれ山のうひよりうれ
永久三年十二月太神宮神宣の合部云
ゝゝ人ゝゝゝゝ
きゝゝゝやをとゝれ山のれゝゝ梧ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
長元
三
ゝゝゝくゝゝゝゝの山の、清水橋
ゝゝゝゝの、ゝゝ坂ゝゝゝゝゝゝの、

続千神祇
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
大嘗会悠紀方四所凡辰日退出音声
白太香宮大神宮
若中納言道房卿
凡雅
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝの山 小丸山 紀伊 西園寺入道実氏家三十首
住二位家隆卿
又すゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ山 後の光明院入道二品親王家五十首

山家月

信實朝臣

信濃科やとしてすむ山の末ゆゑにかたぶくかたの月いとうとし

その山の家 文永元年十月内大臣家の合歌

源義家朝臣

いはつたとめつらしきかなとの山の松のうらにかゝれる初雪

建仁二年五十首 内大臣花

藤原公経

春ゆくかたもしるとやいはしるらん里とうりよりの松せるかとの山のゆき

大納言師俊

久家のあさのさくらをわらつゝ色をそうつすかな

久安五年七月十五日合歌 源三房朝臣

海辺ゆき小舟のもゝしきはられてもつるまもとの山

鴨長明 秋

とゝろきの山 紀伊又陸奥

おちかゝるゝ月のかたらんいつれの松ゝとゝろきの山

5

時雨 仲郷入

とゝろきの山よ松風のゝこさゝとゝろきて

ゝとゝろと云こ

ますらをの山 陸奥郡山

六三

陸奥のあつまの山のあさまやいとをすれとの山しき

もつゝそ西山 和泉書 藤麻 大和

中納言家持卿

[illegible]山 七百首の内 [illegible]

いとゝうつさぬ雲の波うち沸かぬ山のさゝゐ

[illegible]山 若草の大和 三百六十首中

敏忠

かすみの[illegible]山 [illegible]

[illegible]の山 伊勢 天暦百首中

[illegible]

[illegible]

[illegible]

延長九年三月家經卿息女の合

ちはやふるすのの山のやまさくらひらはさきぬるかとぞみる　櫻　よみ人しらず

うゑし山　み吉野　中務卿親王

万十二　神山のやまとなでしこゆふかけてたれかはなれぬ　同

永万二年五月経盛公家の合

神山のさくらはのちのよまでもかはらぬ色をまつ人　清輔朝臣

同

うゑし山よもぎ　仲行

おもかげ経盛公

新編国歌大観

新撰六十百首　経盛卿

神山のうゑしのくるてさくらはひらはしめさるかつきはつ

寄桜　孫子　拾遺の合　寂超法師

神山の峯の八重櫻　ものみやま

播川院内百首　前中納言通房卿

神山のかりとさとむる見さくらの花はやうやうあらはす

新後拾遺賀

寄桜　古

いもとをみるやあらうらのやまさくらのうゑしの

名所中

かぐやま　かぐや姫

なくてゆめとそみゆる神山のまさきの葛はかるかは

かぐやま　山城　歌枕　御手洗

かぐや山の名れみそしもすまたこゝにくもりてこゝのけ

こゝ山ちれ寛元こと年一結縁經一百首

藤原為家

天くらゝ神のくらゝ山とこそ思ふとみるこゝさ

遠保三年九月百首　家中納言宗通卿

続千夏

夏月多い天のくらゝ山とこそ思ふとみるこゝさ

藤原為家

[illegible]

天暦四年正月廿日京極殿の合

よゝ人ちゝす

家集

清輔朝臣

家　五百津真榊　三笠山

くゝ山のゆゝ榊はまさきかずまさきはうさうにいるしい

山市一ハ山階ちるよ万僧供養して仏菩提さ

てまつりゝ菩提の為いよあてくゝさ

ものとてこひそれい天暦帝の四千かえの内

彼ちれ仏菩提の為ようさゝゝ三のハ年

229752

5 二字分

あんまりうつる例をもひてあると云こ

長谷

人丸

万三

あしびきの山鳥の尾のしだり尾の長々しを夜をひとりかもねむ

拾遺さちて、さくらゝれ、はれ行よかさゝ人ゝ行ゝ

つたゝ、あちむきさき、百番合、紫式部、さちいて、

あしびき毎ハ、うちなほと、うたたね、こゝ人ゝ

明石の山 大和文治六年五拾百首

白妙

白たへの袖の上の雪の山

あまつ人のふもとの海ひけの海ふかうさとる山の雪の山

万葉集

常盤井入道太政大臣

万七

五十八

六十

雪のゝうさとる山のゝ山のゝ山のゝ雪ゝ山のゝ

新撰宮内

六帖

雪ゝ

雪ゝ山ゝ雪ゝ山ゝ雪ゝ

雪ゝ

雪ゝ

9353

やま
うゑ山の岩ほのようにひろさのうれいさし万代までよ

延法師

家集

良玉 やま
乗山よりさらに木ぶのさかさいてさしてもゝ代ぞあり

家集大業令と　　えん捕

祈
秋ぞ来のいろもうつぬうゑ山よりさきのうけとるさらへきや

迎長二年左兵衛尉藤原

家
かうゑ山のうゑとうはりてゆくあよこさうあらく代をぬん

六四

第二納言公任

波のうちあつとうさうゑ山のうさまをさうよつて波へ

はるかにいたりとも彩ちまつりあひてく
ゑてこそいとぞ人の白ばうりくるとさ

家集初略し

和泉式部

ゑ集のうちもゆまうゑ山のうゑをつゝてるもゝ

二納言経信

家集拾代

野 続古賀
岩井のひさしさこと いうけうす乗のおゝ山のまつてうん

家集百十首

指出納言實家

乗山よりつくゆきのりたさしてさよ沼つのあまさうし

関白藤原の合

縁起部下

やま 岩
うゑ山のいさしさぬ沼よりついひさしさ代の岩

934

かつらき山　大和　ふる雨　こうこんちとと

百十一　春雨のうつるさ山よりうつる雲のうちてもゆくもつそそろふ　拾遺三

百首歌中

うつるやの山はうすむしのうすにまつる雲とうつる雲の暖

深山花

いろふかて雲ここかつれうつるやうまの桜いさ咲ぬと

建保三年名所百首　法二位家隆卿

春雨うさけるうちうつるさの山のうちの桜ちるうん

正三位知家卿

をとろうかつるさの山の桜むうすまよりゆけ

百十二　春の日のうさしの山の桜ちるかとうふとして西新はろ

うさうしの山　後の　千五百歌合

野と交た古

梅のむ春の山すてよ咲よろうみりのちるしのの山

小雪　拾百首中　後鳥羽院御歌

吹みうるさし山の桜もみりしの雲よろやまうん

うさうさの山　建仁二年五千首　左兵衛

山歌

大の中納言定家卿

うつるるようさの山の桜もやりいりの池すとと

935

建保三年内裏百首二位家隆卿

[illegible]

方十四　鎌倉山　相模　[illegible]

[illegible]

家集

[illegible]

[illegible]

人もすまてゆきはひ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二条大宮大臣家歌合

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

五六 河ちのさ次ゝ岩ゝ、そちら富さ、ふしろの城、谷のまゝ山きはのまゝ柱ゝ

かくれの山佐伊と郡名　ちゝ人しゝす

五一 我賀よ　いつちゆらん沖つ豪のうれの山とうみうん

人丸

五十 うみ山金山家又同　信奥

うみ山のさくひうさ下ゝさよ晴とりのこゑうさらいうちけん

家集

奈良御歌

ゆみ山よかくねさもう常盤木の松よ如ひますくまの

うるひの山丹後　永保元年大嘗会之時奉行方

イキ　義政

四条院

いのくうかるひの山のさひうくれさもつきぬ宮方の山

かさめの山筑前国　正嘉大嘗会

大納言隆博

あめうとうさ武山のくさ赤まて雲のめくゝれ春そ

かさとり山伊乃山城　宝治元年百首

冷泉為氏卿

たちあくい一もりゝ雨よ立ちもうさとり山のこゑ山れ秋也

郡ふ和

立こ

雨うるみちハ雨ゝひぬ山えゝのめさとり山やうれうん

家集

西行法人

雨さゝ月うひたのくうやかぬんの村雨うれぬさとりの山

9317

うさぬひの山　みの　あつまやまとうたのうた

安嘉門院四条

十六夜日記

こひへいこのうらうらひりめくれの面よやとうかさぬのの山やま　里日記

山家集　路次記云同ら　三宝

よすがらてあらうらせいらさぬひのしまやふ

つよ　あよ　言ちてねとうまるとうこ

かつらの山　をはみの山　或ちをお　ちをお　国ら京にのりて作者

ふるさとへいる

万こ　あつさうひけさうたのかつらみみすひさまるいこひ　国

同国須山にて作者　年拾女

大宮のしつらあへやとよたのかつらの山をこやとうこ

中納言家持卿

家集雜部中

うきけるかつらの山をうけはとれいこひきひ　妹

天延元年円裏山屏風　元輔

みさしと谷のうりのしたよはかつらの山そいこ

紫式部日記

家集

あつれあくあさへすうかつらの山みすはうらぬこうこ

永仁大嘗会

第中納言俊定卿

非代うりうりぬ屏うのかつ　鏡やま　いう

雪代

正三位知家卿

紀伊六

雪ふれはまつぬはなきみねのまつ
百首四十
むらさきかこの山よりはる雪はふれしつりはなはちるん
大嘗会五首屏風
むらさきのこのもとのはるの雪とかこの山のはるの雪
遠保三年多武百首 後二位藤原
あかつきのかこの山のむらさきけてもちよはらん
正三位忠房
海よりのれりけるかこの山のすそ雪はるは
為張和尚

かこの資のかこの山の月さしいりてはるの新しきを
千部三十首より雪
撰位正三位
ゆきの雪のはるのはるの雪ひそのもりのはるの
毎日一首中
民部卿
あまつそらひむかしよりの日のはるの山の雪ひかりをそ
七十
頼田王
やすみしし我大君のうちはやすとはるの山のはるの
かこの山のはるの山
かこのはるの山 紀伊 紀伊
万九
この山よりはるの山のはるの山のはるの山のはるの

かとやま　祐村保安四年大嘗会主基方
御屏風　　藤原為忠朝臣

万代　ふるやまのうつもれ山のこのしたに　大蔵卿隆信卿
　　同

正嘉大嘗会

万代　万代をさしてすぎゆくふるやまの　藤原為家朝臣
かつらぎやまのうつもれ山　　大和入道

来拍色ちらしてしかすぎゆくふるやまの　光明峯寺入道前摂政

文永九年中務卿親王歌合

　　恋二位行家卿

なつのあふぎはゆかりもてちらやまのうつもれ山のうもれ

　　雑ふる和

万十二　ひとりのこみをいとひしの色ぬるひのやまみちとなれり　千折
　　えきき

万十　ぬれてはきこひすしぬるひのやまよさらふけてなく　同

万十　うきなしひのやまとゆくみかりの宿とはいとはんや

　　百首歌奉

　　土御門院御製

こしろ衣のぬるるひのやまのもくいつちをけきはりひてをなは　ぬるる

　　述懐

万三　こあとをたにしらるとをそ　ぬるるひのやまのもくいつちをけきはりひてをなは

はつかまつりて、

やの山　可之絵　歌合

　　雑ふる和

　　同

一百十五
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

懷中
みの国なるやまの日ぐれ　畑
ひさくら
[illegible]
[illegible]
[illegible]

六二
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

六三
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

941

[illegible]

花月百首 [illegible]

[illegible]

久安五年七月十五日合山路花

西念法師

[illegible]

百首 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

海辺のはるさはるゝはらうゝ山いつかこえんかりん
月
ゆくすゑやまずたゆひくゝうゝ山あてせんはるかもれたひんも

ゆ

同

白雲の三笠の山のさゝれ石の苔倉ゆめかゝるそ榊
潮上

家集

人丸

新後拾遺

ゆきかゝるうちうちこゆるふるゝ山ふるくもみゆる松のみどりゆ
色みな 新後拾

保安二年九月内大臣家の合

かゝる衣うるれゆゑよいうて神ひとのうるもれうひとれ

ゆ

よの百番の合

基俊

賀茂右大臣

詠留山ゝしもゝの雪ふりけはゝるとの雪ふる月
やま

百首四首

白雲のうゝの橋ふるゝ雪ふる和歌をうけて雪ふる雪
さゝ

法勝寺院政記

阿一上人

三笠山四月のゝとゝもたゝやすの里ふるゆるとよ
やまちゝし

四十首ハ河内国歌典ゝすきゆゝをはしすむ
三京下

雨いゝの雨ゝと弱ゆゝ人のあゝしよて待ゆ
5

人のをゝうよゝて待ゝうゝとゝゝ

四条々紀ふと

たゝひゝそゝゆゝ和心の紀ふゝよゝゝ
七みちゝゝ

人三ふのゝ子性和

942

たひけ山 大和又ハ江に或ハ摸 紀伊

高丁 続千載 野雁集

ふるさとを花とをもおもしむかしをいまの山の秋そあらら

拾遺 春

同

一万六丁 玉葉

久かたのあまの山ぢをこえていづれの秋によりてなるらん

よみ人しらず

同

一万十二

ふるさとの春ぞ昔のしるべなる花をたずねんこころ山ぢを

建保三年名所百首 法三位為家卿

月をまちいさりをんなの袖ぬれぬ

たなつ瀬山 おはつ瀬紀伊 みつ瀬 大和

赤人

9413

万六

ちはやぶるたけをりつくしかくれたるこそ那波山

よみ人しらず

万十二

毎月山 大和 みなの

ふるさとのよいくらくらの岩ふるしてそこにいりよ

万十二

しらぬよいたらぬの岩ぬき者すきはなくを

拾遺 九条内大臣

柿本新撰百首

月毎のあけ雲つくしやまのこそれつる滝

たまつの山 高倉山 みたわ

あつした

よみ人しらず

一万十

里ことに霜いとをしろし松の野をやまおぼろをいろいろ

万十

夕ぢれい衣ひさしやまのふりしまの雪

ゆ上

永仁大嘗会　　前中納言俊定卿

[illegible]

たかせの山　摂津　百首　人丸

[illegible]

小野社百首　　藤原為家

新後拾秋上　いとゝしのやまのよもきいろにそめつゝ月の

面影　山　大和　郡名　八重桜ト

万八　雲間なるこの河面ゆるくなびかすもちかさはしさ

[illegible]

左京大夫師俊

万代　さゝ波の山の端つゝき出でゝ春をきゝてもめぐる

建保三年名所百首　　西行法師歌

[illegible]

たゝ波の山　大和　四方歌百首

[illegible]

新古今　よそにのみこゝろ[illegible]やまんはゝ[illegible]

同

新拾恋一　つゝゝゝやゝゝ波の山[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

法橋[illegible]

たりさの山 [illegible]

[illegible]人[illegible]

うらうひさ[illegible]

[illegible]山 [illegible]

[illegible]

玉雑三

たりの山清流河をうつして[illegible]

文永七年毎日[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

たりさの山 [illegible]

[illegible]

風賀

[illegible]代[illegible]

5

[illegible]

[illegible]人の家門四よ[illegible]

天仁元年大[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

法華寺貫伊

[illegible]

[illegible]

[illegible]

948

那仲勾

人丸

正家卿

よろづ人ことのはすなり

日

中務卿の内侍

郎女

西行

百首哥

949

[illegible]

百首の中 山路

為兼和歌

[illegible]

あつまやまうちうるる時　源光行

[illegible]

三字ト

[illegible]

山とさしもあり山中[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

拾遺負外

[illegible]

[illegible]

合月を

[illegible]

源仲正

[illegible]

中納言藤原

[illegible]

[illegible]

久安五年七月百合山河雲林院法師

[illegible]

三字ト

[illegible]

前中納言定家卿

[illegible]

[illegible]

[illegible]

はるさの山　関紀　百首　後鳥羽院御製

春雨色をのとそそそそ神なびろ　櫻つくさの山のもとだ

建長八年百首の合　後九条内大臣

あら磯のはるかさの山わけ出て　さそふ白波

はるかすみ　河きりくもりそそそそみしぬれ　位つくさの山を

夏のうさ　中よりかう　青葉のそそそそ　さ　ゆ　ん　簡本の　思ひ　紀よみ　ゆ　ま　ば

ふる　思　ふ　ふ　ふ

百首歌中　光明峯寺入道摂政

おちつの山寺井にこゆる雲のいとねもかるる滝乃白玉

雜歌中　法印定家

かりひとの神さへいつをかりぬはなちの松の山の秋の滝つせ

あづの山　たゆ　ゆふ　前武天皇四宮

百八　あれはよしきりの山の木ずえにはくまもやとれとあるをも

同　定女房

百四　あつまのこまつ山のこまつ　下　まつ　之　なけきつる

なつ山　連座をはしる　同歌　ようこくしらも

百七　さしもなれ代なつ山の雲かれはあてはふりにける

あつ山　永保元年　大嘗　大嘗祭　方四房門

あつ山　永保元年　大嘗祭　方四房門　人の

ありたなつ山　あり　前中納言　定房

とつ山　とつ山　大嘗祭　方四房門

為　代　代　為　為　為

955-5

百代といのりそこなはもの
　　ものゝ山中　相模　郡司
　　ちとせ人ちとせ
　　ちとせすまれをゆすのもりやまいるけさむこそ
　　つれ

　　家集

中
　　ものゝ山のふるさとすゝ　今年
　　ものゝの山　大あつま山作
　　ちはやぶる　相模
　　ちはやぶる　二位殿氏
　　みかの月のうそ　ものかへるさよ　ものゝ山のやまを
　　なつむし山　をに　源為朝　證イ
　　おの代　ものゝ山　ものゝてはさすかこゝろ　編
　　ものゝの山　もゝ　をに　上総　家集

　　左京大夫　頼輔
　　玉賀
　　百代　ものゝ　山のいろ　ものゝ　ひとの千かの花の　ものゝ
　　日吉社百首
　　ものゝ　ものゝ　ものゝ　ものゝ
　　ものゝ山　ものゝ　ものゝ　ものゝ
　　ものゝ　ものゝ　ものゝ　ものゝ
　　ものゝ　ものゝ　ものゝ　ものゝ
　　ものゝ

954

三字下

瀧山の樹よりさきれるゝ通雅及河茂可
紀伊樹いろ〻の山よりさきたるもつきにあり
されと波せ多山の首位人位ゆゑ天地也
天智天皇伽藍と建立し給ふ家福百足
樹わらといつてとしみて物すゝ流こそ物
ゆるれとゝく

播磨

播磨　元輔

なつかしの山　家集

なつけの山　四季部

なつかしの山　松イ

なつけの山　百首部

為忠卿百

ゝゝそなつかしの山よりきてとゝろ〻ふるゝ
なつかしの山　長谷山縁　やま　元輔

新六一

ゝゝのとの御ゆかりすゝ谷山よりあしかる
いたゝゝひけるゝゝあるゝ人ゝゝゝゝそまつり
ゝゝ代　お大納　公任イ

人のいのちなつかしの山よりなつかしの山　所

なつかしの山　古今紀伊　家集撰六の中

白雲のちゝのゝゝゝゝ

あしとかのくさの山ぬれてきたるひとすぢのさかつる

あてしこの山 陸奥 東素 能因法師

はるよりわかえひなせてかすむこの名ぬしのみたるまの山

拾遺の山を 大蔵卿 公任

白太白爰堂人像 公任

春の日のひかりはさしもとどまれるさくら梅ゆの山

しらくもの山 藤原 実方

あらしのしたにぬれてかりけるむらさめの雨のたまり

はるすぎ永保元年大嘗会の日の屏風

雲山よ雨ぬれのあとに田のとりとる

うらま山 宇治関白 長谷王

続古歌

うらまの山 能因法師

うらま山 山城の上 永久三年五月大神宮御遷宮合

佐歌

歌

あらぬ代にひさしかるべきうらまの三笠の松のたちさかえ

うら山の花撰集 法師

寂蓮法師

ふるさとの宿の松にて月のこそすむうらのやまの

うらうら山 上野 永久四年百首

俊頼朝臣

956

[illegible]

[illegible]山の[illegible]の[illegible]

[illegible]山の[illegible]

[illegible]

[illegible]

9357

かけてもそうたかすてらさうの山たに

建保三年九月百首　俊正卿家

[illegible]の山さしていつるひてゆしてとうすうたてるこのそたに

四鶴　冬中一首

法華堂前

冬ふるさとのもみちもえてさそくよかてらうたの山と

法隆寺昭

[illegible]の山ゆつるはれいさしれり神のうつりあいれるひ

最　[illegible]

俊成卿女

[illegible]の本のもみちもうつしてうつしとらさうの山たに

前大納言為忠

正治二年百首

新千載

[illegible]

[illegible]の山たに河霧と光俊卿

[illegible]

法三位為忠

海辺紅葉

[illegible]

[illegible]

[illegible]

三字下

[illegible]

[illegible]

慈鎮

[illegible]

[illegible]

文治六年五社百首　皇太后宮大夫俊成

玉葉

[illegible]

五十首

新続古歌

[illegible]　法二位家隆

[illegible]

人丸

[illegible]

隆祐

[illegible]

月

[illegible]　法二位為定

信濃

[illegible]

[illegible]

中納言家隆

[illegible]

建長八年百首の合　法下宮作

秋の夜のつきのかつらぬ衣うつるねの山の秋のちさの月

山歌判ニ云ウツルネノ山宣作ニ秋和ニウツ

のめつらしき名和ニ自分のうきとわ

ぶ歌ニこまこそ河よつまうひとはのすゑ

まこ山雅ヨ歌ニすとうこ

うつるの山俊成ニ弘安元年百首

ひとと

月にてをうひとのためとやしら雪のうつるの山のよさらの梅うえ

歌九条内大臣

歌一首入名所月

月

かのうとはすやうらの山俊成部ふ和　よさ人ゆ

月

月のうれはすすひの山俊成ニ月ハ世なのまそとさやよ

うさ潟山いけのう

月

松ま吹いけのうつ月ニ波ようつうさ潟乃山

山ま

はかすみ山ニ伊勢元ニ二月のとをなの

山よ人ゆのうつ遠海山ニうら東よ八ま河

まこ山ニ波はうるとをみうて冨士のゆのた

二百ヶ十

西国よりあらして甲斐の国へ信濃みち
うあり山は英流たちの山とも色のうつる
加賀の白山うの乾よりたつの山すうのうつ
うへや西は布引の山あさう山又伊勢ぶたた
の山とも色々を重ねあさ海山ま海
くふの方へあさ海とるてひろうのよ
うなとて山あり其の山の西のそれて
加へこのうやおつまずうこ山色はるなて
まうらてるじあるとうく
井十山とも 井ふの山 振法 行ぶつまてかとうりける

人のうつうつ 修北郡長

井ふのたふ山ふてうてすつてうたち

ふふ和

一万十

ふるうとりわふ山とうこのゆうのうれ

井ての山 山後 三百五千前中

井ての山 井せさの山 四月 百前の光後郡長

井ての山 井せさの山 井せさの山 井ねう月の四船の新そさ

ねせさの光後郡長 道金法師

五十六

新続古歌

おくれいつる風そうのとさたかなてあさたの山ふかあらし

のちせの山 長閑 義俊 郭公

五十七

ほうくはよ人いつとをもうさうたの山のちせの山の郭公

六十二

もうさなるほとの山のちもあらん郭公よ人よ

九月十三夜内裏にて

第中納言定家

名月の秋の光しくさはさてらやほとの山のさと

鹿

家業

よしすのちせの山のさ月やさのれのしのしのひ

山

祝部成茂

五十八

ひもかくのとの山 後光厳院御製 よしの人ちとも

のとの山

同

五十九

とはさてふかはうとの山のの山のの山

山

長盛

六十

源のうのさとのとのとのとのとの

松のうの山 山家 家定

七月の秋

之俊

後拾遺

源こ松の原 山のうのひのうの

橋井居

春

[illegible]

[illegible]の山 山城 千五百番歌合

[illegible]

[illegible]

大宮殿の[illegible]

実方集

[illegible]の山の[illegible]

新続古春下

[illegible]の山 [illegible]

[illegible]

[illegible]の山 大和 [illegible]

[illegible]

[illegible]の山 大和 [illegible]

[illegible]

[illegible]の山 [illegible]

[illegible]

[illegible]の山 大和 [illegible]

[illegible]

[illegible]の山 [illegible]

[illegible]

[illegible]の山 [illegible]

[illegible]

[illegible]の山

963

数

[illegible]

同

[illegible]

万七

[illegible]

[illegible]

[illegible]

万八

大[illegible]山[illegible]

[illegible]

万九

[illegible]

[illegible]

同

万十

[illegible]

同

[illegible]山 同

[illegible]

六四

[illegible]山のさゝ[illegible]

同

[illegible]

[illegible]

[illegible]

964

[illegible]

祝言の中

[illegible]

家集

[illegible]

元亨

同

[illegible]

相模

[illegible]

[illegible]

[illegible]

965

三字ト

山のハ橋の院に詣でしに泉もこのまこと面よ
ゆくまでよりてはるかにちりくるとゆる
をとゝけるとく

五

八丁

続古歌

さくらの山 拾遺文 ゆ月 彩不知　ゝ人ゝ

をしてるる雜波とすきてゆるひくゝ世代ゝ

くろゝ山 拾遺 みとり 同　同

百七

ゝゝ山のやまとのゝ

花人ゝ花ゝゝ　雲ゝ人

ゆしくらるゝゝ

くゝふ山 続歌山 武信 ゆゝ 天徳三年二月内裏歌合

元真

おもて

ゝゝ山ゝゝ梅のゝゝ

思

ゆ月

ゝ

ゝ

ゝ

[illegible]山 [illegible] 大和 家集 [illegible]

白雲のたえ間にすみのぼるかな

[illegible]集 [illegible]人

子規

[illegible]

[illegible]の山 紀伊 [illegible]院南山寺の門

大[illegible]

[illegible]山 [illegible]

百首歌

[illegible]

[illegible]院[illegible]

[illegible]の山 紀伊

月

[illegible]

[illegible]山 山城又 信濃 [illegible]

[illegible]

大和物語

[illegible]

[illegible]

[illegible]

967

[illegible]

[illegible]

[illegible]

968

拾雑上 百七丁

同

百八丁

味の神まさりし山の名

同

塩

具教卿

同

遠保三年九月廿日備後二位家隆卿

三條内府

同

百九丁

郭公

百十丁

同

百十一丁

山名行左和泉守

敦勅旅

同

百十二丁

君

庵

時

弁基法師

989

安居院林院の会流　招僧西京歌

ふる代をまつの山の山松ふかき人をうれしき

山とり　よしの人しるを

六二

久され人ふる代まつの山とりのなくめる代をしらぬ人

久安百首

郁芳門院安藝

わきもこをこそ思かくしさまつの山すそ野をとをやまの

まつの山　後拾遺集　後拾遺

野とをとをはるかつる風やまつの山のあ

北野百首　建仁二年

法性寺入道関白

こぬ人をまつの山のそらに月のうけよ明

山家陽山家

法性寺入道関白

おくしらさしらくもまてはの風のまつの山へ今

まさきのの山　槙尾山　建仁二年七月八幡宮文亭

合山家松

院宴

院宴まさきの山の松の人けもとをやとしらぬ

西治二年百首　法一位家潜仁

ひとくもとをかの星をかりしるかはのの山のタ人をとり

まつのを山　山階入道左大臣家百首タ立

民部卿為家

岩かけ月のつゝ八時よりの松のの山のタ人をとの雲

940

きりさの山　為家卿家集

重之

きりさのきりさの山をよそにのみ見てすぎぬれとつまをこそ思へ

遠長二年清家の合　光俊朝臣

やまもとあすもみんなくさの山のゆきさしの山にもつさかり

九月九首題の合　実イ　清三位為家

菊のうへの露をいやすくひて新の山をのぼる月かな

まきのの山下殿　俊川院内百首

秋ふかみ紅葉の色の深ゆくはきりさの山に入るうん

きりさの山　寄仏法　建久九年大嘗会　摂中

ふかき中納言源雅賢

正嘉元年大嘗会　摂中

ふかきはきりさの山にたちそめてはるかにうつる月の光

大納言隆親

まつの山　松浦中又清波　為家卿

久方のあまのかぐやまをまいりてのぼりさかりの月

まきてのの山　為家

妹と背とまきてのの山をたづねなばよもやかりのあやまちもせん

ふかの山　為家卿

よもの人ちりぬ

六二

[illegible]

[illegible]山 [illegible]

万面

天の原富士の高ねの河ゆつりみいあいすもあんん

建保三年九月百首　従二位家隆卿

[illegible]えそのふしたかき山のみひ[illegible]ゆきかはつるとやすきみるん

歌集

富士のひやさ山色[illegible]今はかきあしきあしきの雪のふる日はなし

正治二年百首　従二位家隆

ふしのしやまかれはやかてふる雪のひとひも[illegible]なきなき

詠月畫山　[illegible]丸

四三

富士のひよりをくる雪はみな月のもちよりもあれはかの夜[illegible]

[illegible]

あまつみのくもの[illegible]ふはうちよりをる、するる[illegible]、[illegible]

[illegible]の[illegible]たいてくる、富士[illegible]はあ[illegible]雪もいゆきくらし、

[illegible]色、[illegible]色[illegible]、[illegible]ひを[illegible]、[illegible]

ひとてくる、いひ色[illegible]、

二百五十首中　光俊朝臣

[illegible]たきかはひすかはかはかの山[illegible]

[illegible]

[illegible]

建長五年毎月二首中あまたにてよりて
歌人々の歌

流のかとよ富士山おろし吹さえてこゝろひへくれてあつ

ふるこの山 布當山 後撰大和 影ふる

乃六 ふるこの山やまとなるみまいもくよみてもろ〳〵ぬ大宮ところ

山

拾遺六 いつこ迄のこの今河しふるこの山やまとなるみまいへ者たろくして

ふるこの山 二上大和 又伊中 出れ三年九月影浦人歌

この合歌

河面のふるこの山代こゝろをいかに未すゑもあけよ たてるかな

京歌

天禄元年八月歌合中四分公言

二神山

ふるこの代ハふるこの山の岩ほよりかれの花ひらけて

影ふる和

丁七 ふるこの山やまとなる河のあるひさ時つきはよりふるこの山近江元永元年正月中院入道大臣

歌合

乃六 紅葉の山やまとなる河のあるひさ時つきはよりふるこの山

歌集

今 ふるこの山やまとなる三下しるさ山のはさらのあ山よりふるこの

中務のしたこ

972

9973

仕業

[illegible]

[illegible]

[illegible]

有馬温泉

三寸下

山寸ハ二ツ山ハ高サ

ヤリテ

三寸下

山ヶ路次紀ノ国ヨリ二村山ヨリ

山中ヲ

ヲ

ヲ

9975

[illegible]

[illegible]

[illegible]

里つゝさゝ雪の雜をおしみてみちをあけすぎ
中務卿のみこ

手ふれしか雪の枝のもしたをけふはすゝしふかの山
裏葉

手ふれしの枝の本陰は駒とめて
月

遠仁二年五月前四位中納言家歌合

不破の山風もたまらぬ雲の色
雅経

新古今二年十月法住寺殿の御所の歌合に
隆信卿

ふかの山ゆきもぬるゝとすゝしさぬ雪のあれ
ふ彼山代 信中

ふ代おもふてはるゝ山の雪のなつゝ
よし人ちゝと

こゝの山 秋の中
恵慶法師

ゆくすゑ秋下
ゆくすゑもこゝの山のとしの秋
ふちさう山 後拾遺集
好忠

さしもなもしぬらんやそもしをさをかりつしをさちさふ
こゝの山 物語 ふ和
田多福丸

万六
こゝの山は峰ふ雲ゝつゝこゝは降りとしぬこゝにこゝろ
こゝろ山 山家集
信實卿

こしぢ山あるハさんかくのもとかるそもこうやん
木幡
このもと山ゆかぬ和　よこうへ志ん
万葉
ゆくへもとこのもと山のまゆ　真柴
ゆかぬ和ぬるらぬ妹ゆへ　いとなん
こせのさ山家集雨中河辺

たれさうん世のさ山の松かうれ　俊頼朝臣
雨
こちら世山高の中　西三位知盛
万葉六
ゆくひとのゆくへさまたけ　其
うのさ代山　浮紙　紀紙
万五
梅のむちくいつくさ　大伴百代
とうもての山　俊頼　山撰
ゆくへ人しらん
ことひき山　俊頼
六二
ゆくへ人の変のさ　琴
俊中
さのこそことひき山と人　お
こ海ろさの山家集　祐挙
ゆきの海の波打ちてこ　の山
こまつの山　小松　家集　俊頼朝臣
いろ和て若ころもよ　ちうんこまつの山　やま
こうこ山　まこうこ　俊中　俊恵法師　雲

9178

文保
さく浪やこしらえ山の雲ハれてあつまの奥の月ぞすさまし

志のゝ山 御中 山城歌 新集 安法師

家
しのゝめの山の紅葉のまさきハ散ぬらん

堀河院の御百首 俊恵法師

堀百
ゆふさくらしのゝ山ハ木葉ゆへ人ぞすりける

うゑ木い山 はるかなるおもきの山ゆ列 新集 奇

法二位家隆卿

おとゝ山 ほくさ
ほとゝきすこゑの山の郭公たゝのうゝ夜とさらす

藤今

うゑ木い山 御中 彩子 ふ人 ふ人 ふ人 ふ人

五十二
雲ゆるうゝの山ゆ雲ゆるうゝの山ゆ雲ゆるうゝの山ゆ

明日女命以石窓塞而不得會而意悲云歌

山辺とみたさしらとはまの宮のいまてはちり

はりてあれはるさ海くふりとのちりひち

りの白雲山と世りひのりれはことと

世りひてとはつられて物思と名はく歌也

流いちりひてそ物人きとちく

あさら山 安積陸奥 影ふみ知 市原王

万八

河まちて世りるちりれの毎やそあされ山のろひぬん

家女郎

同

万十一

あさら山やまけさへこもる山の井はあされんはるはりはなる

人よりたくはしるる

仁和四製

万廿四

あさら山やまあさかるちの川せをはやみたれはなら

続後拾意一

あを山 八雲立湯ノ大和又国防 影ふみ知 ようへもちる

万十

あれ山のいてうさぬ戸のみりにしのやうんあふうもるき

湯原王

同

万立

あ紅山の葉の色ちるあさけ

万三

つねあれもめ影

大伴坂上郎女

万四

あを山どりこゑ聞ものいちもるもれと名うてへ今

泉落書 山ホ白雲 千里

ゆく

影ふの色さ山やまうわ物ちりれいちるちるもとみまたひつく

康平四年三月祇子門殿上歌合

みちをさいそうさり四いまの山のあけいそよりうらはる

左近衛

伝宗貞

おもかけ

おもかけとそよそうそれおのつゝ峯のさゝれまふもしさきよりうゝ人ちゝす

万十四 筑波根 脊 面

つくちねのそうひよこゆあるあ山あるく保常陸

あさきの山 美濃 若狭

三条殿

あ山ゝ峯いうゝ山ゝ山ゝ山

洞院摂政家百首 法二位藤氏卿

雪さえぬ富士のすそ野とみるまでに
真白に二年六月名所百首 藤原為家卿

雲うすき山ぢ[元]いろのつゆ
家集

ふる[元]雪にくもりはてぬ冬の月
真白に三年百首

雪ふかき山ぢ[元]はくもりつゆ
藤原為家卿

わさだの山 安後案 お後
雪ふる[万五]のあられの山のひかり

あさつま山 新勅撰

けさゆきてあすはいかにとまつ[万十]山
人麿

[万十]ふるゆきのつもる山ぢ[妻]
[万十]ふるゆきのつもる山ぢ[同]

[万十]ふるゆきのつもる山ぢ[殿]

[万十]ふるゆきのつもる山ぢ

[万十]ふるゆきのつもる山ぢ

[万十]ふるゆきのつもる山ぢ

あさくら山 俗中 寛永三年大嘗会俗中国

第中納言殿

玉賀 和河内国ありまの郡白川村の山 合津陸奥 彩色 よろこ人しるしと

六二 ものをあめつ山いるさ海とふるとこ

万十四 ものこけのあそ山つら野氏ひとくさひとものをあせう

十廣 廣 同 相津 物 物 物

983

[illegible]

[illegible]

[illegible]

984

海色まさるあらの山はさもしろれいこすゑの春こそまさるぬ

はかり判官基経像 懐中 計

中あるものん作りてや花とまもりろろ

へきるりてとこと

あしさ山 西宋 嵯峨 彫ふ和 よこと人ものだ

一万十二 懐中 懐中 梢

あしさ山 こそつもそあすりいたあきられそ

懐中 こと

うさこと代ろひつてのあしさ山あけさうりつ山手やへぬん

同

あへ志波山 石清水 大和

一万十二

たりつまあへ志波山の夕雲よ猪ひはせんやさもしさの春

同

あしさ山 栗田 山城

懐中 中 月 十 四 同 同 十 月 十 中

あしさ山うもとしもとあへ志波山ものさりはそりさりさ

あしさ山 石清水 大和

あしさ山 栗田 山城

あしさ山 栗田 山城

六二

白河院御願 法勝寺

白川院中文上総

拾きてみよ霞やりさはるひくとあしさの山ものさ

あしさの山 愛宕 護山 嵯峨 彫ふ和 よこと人ものだ

六二

もりたりハ海のあしさの山あれやこひしと祈りて人のりうん

源宗家を

あしさ山 やま

あしさ山 やま

第中納言 道房卿 注

あしさ山 やま

遠情百首中　俊恵法師

我　愛宕

われとゝへいあたごの山よりをりすりのきぬ桜のるきけ
ちるのゝや

あさ西山　秀家　民アヽ白家

いさゆゝふかのとゝ畑ありのあき西山あさまゝしるゝ金るたゞらうん

あゝ山　茂家　みそお　白拍部　日

わ六二

うゝ〳〵ゝ名岩のあゝ山そいけてやすゝハ人のすさゝうのゝや

四十首中日記　中宮大のゝ

接のゝあゝ山ゝ桜ゝ　ゝさゝ

彰ふ紀

万三

ゝゝきハ林ゝ山也ハ接のゝあゝ山中ゝうゝをゝすゝ

あゝさゝ山　茂家　源仲正

とり井ゝあゝさゝ山のさゝひゝたゝけの花よりれるゝさゝそ

坂

接京極摂政家百首　合歓中　地ゝ

光明寺の入道摂政

六〇九
六二四
ゝ一

あゝはのゝうゝをあゝさゝゝてゝ西世ハ不山ハゝをのゝあゝ

猿ゝ花

あゝさゝの山の霞ゝてゝゝゝ名ハゝゝのゝゝゝ

ゝゝ人ゝゝゝす

ゝ名

万十三

ゝゝゝ名のゝゝゝ

986

あしの山　山城　歌集　西行三人

いつこゝにあつりあつまへきみやりのまゝのしの山ゝをなハ

山ゝ中ハいまゝ　三宮ト

ものうてく　定仁法師と　物語　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

にゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

保延元年　歌合　歌集

左　弘院　高野

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

三宮ト　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

ゝ

きさらの五十首 合　　新陽門院紀伊

第代をひろりよこてあさひ山のこゝろよすむ和哥の

　　左馬頭

　　光俊朝臣

第六二

あさ日山うたむこゝろ　　入西

　　家業

　　實方朝臣

紀伊山ゆきとをけしクヽこすきあけてれるこゝいのこゝ

あつま山ちゝ部　　よこ人こゝす

あさこよこ川あり世いあつまこの山よひとつはかきあり

　　入道二位

　　二条

　　法皇院内百首

　　藤仲朝臣

あさ霧すゝあつまこ山代はけはこゝろ鶴ゆりて

あさ日山　義孝　　家業　　西行法人

きさらぎ山こけのむしろの上みて書りこゝのこゝろすれ

あひの中山　　日

あひきちのあひの中山　　山賀せきこんの中くみこゝ

あしくま山　肥後　　左馬頭　　衣笠内大臣

第六六

ゆつり葉のこゝいの山ゆこゝ山ぬあしくまこゝ書の

あり田の山　　紀伊　　きさらの五十首 合

　　後京極摂政

なのりろハ三月の雨こゝろひて月そ山ゆこゝ

　　ろこ

　　ろこ

　　ろこ

道一家成一首中

おもかげ納こ家に　慈鎮和尚

てりうつる雲こそ雲のひろりみてくまつ月そそこまるの山

百首内夏の中

夏

夜ふかき雲の松ゝ間ゝ月ゝけ澄て雲のやまの

なかの中を出の山　法二位内實仁

あつ〻の月より雲ひ分あしてあ〻の山と時雨そ

あつさ山　四条宮

蒙を晴消る

中務卿のみこ

雄

きぬ〻のあつ月山のれ〻きたにはれまくはとはすん

あ〻まの山　孝仁親王

新千首百首

後九条内大臣

紙とも入江のさ月のそ〻すみ〻く蔦ゝの山の時雨そ

あ〻りの山　遠保七年影前々家千首

友宗伊予守影房

秋の今月未雲あり雲〻時ゝ雨ゝ〻みゝ〻あ〻りの山ゝ

あつさ山　毎月三百五十首中

好忠

あつさ山みの〻中をあ〻しゝ日多ゝ秋のゝ〻ゝ

雄宣卿

天保元年　あすそあ月ゝ百の日ゝ秋あつさの山ゝ雨ゝ〻ゝ

989

二字ト

はつかの六月をりより五月雨（まろうろうろ）

あつさ乃山ぬしゑめとて雲の坂井しるべとゝ

あるこゝろよ秋ゝつき月ごろとして

日

うろ〳〵あつさの山のいろの月の新まろ明る秋のそらうよ

あきらう山 名会 義の

第中納言道房々

ふきあきらう山のまろうのはらひぬ（ひと）へもあしらて

山 ら坂

ようへ（しゝ）ます

ひろ〳〵とそまれいたそめしあきらう山の雲井

百首哥

浅二位藤澄々

あるたなり秋ゝうあけるたそうれやあきらう山のしゝの

あるこゝの山 名 第六信西原東屋信子編哥

風雲々雅ゝ

雲よあらしの野ゝ山ゝ乃ゝ（やま）

あきゝの山 俗名 嵯峨中 邸哥 よゝ人ゝ去ゝ

秋の色（いろ）いあきゝ秋山のゝゝあゝき露いろうれいゝゝ（そゝ）

あつちの山 名後

日

雲のゝ秋月ゝちゝのゝる河そあつち秋（やま）よいろいろ

あきゝの山 称西 廣奥 家集 好忠

みちのゝ秋あきゝの山いゝ秋ゝりのゝちの〳〵弱もちゝき

あしら西山 陸奥 [illegible]

[illegible]

長歌 同

あしたとけ山 [illegible]

あしすけ山 八世紀 [illegible]

あしめ山 [illegible]

[illegible]

あら山 [illegible]

同

さ月やまとやまもとあら山 [illegible]

あらし山 [illegible]

感忠

[illegible]

[illegible]

[illegible]

991

弘仁二年百首　　藤原公任卿

ゆきとこそみちのせゝをはらへけれきあすさまの中山

菊川家舎山納涼　　為忠朝臣

やすらひよみちゆくひともすむゝ松ゝ立のさやけ中山

石清水三首会　　藤原実氏　富士見　法師

ちはやふるかみのゝくしねよ松風とゝさやの中山

西治二年百首　　左大臣

思ふこの松のはつる松風はゝるゝめるさやのゝ

同院御歌百首　　法二位新成人

松ゝよのまゝとよひとゝよ白雲のさゝの中山あらしはゝ

弘長二年百首撰　　法二位内侍

つゝ思ひけるこゝろのゝ小篠ふそゝてゝ入るゝさの中山

海辺宮次百首　日吸　　藤原為相

名ふゝるゝさゝやの中山あるゝよ海ゝ山ゝてゝ入ゝ

あつまゝくゝらゝ　　為家門院四条

十六夜日記

ゝくゝすゝゝの里ゝ夕ゝやゝに松ゝ世をゝるゝさや中山

三字ノ

四方海辺記　ひゝたゝてゝさゝやの中山

ゝのゝとゝやいゝ社のゝとゝゝいとゝ

に出ゝゝ山ゝけゝて月もをゝゝ

ゝゝゝれゝゝふゝとの里ゝく海ゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

家集

人麿

なつくさに鳴くなる山の郭公の初音聞くとは誰か知らまし

さねさし山 摂津国

よろづ人もとめ

万九十 続古歌

ものさはがしの山のわかけよりゆくとはなしに

御堂の院の河百首

陸奥太郎

白とりの鳴海山をこえてきくほとゝぎすはつこゑ

さつき山 摂津国

人麿

万十一 新古歌

万十一 さ月山うの花月よりはなれくきたりけるとあるうの花

さ月山花たちばなのかをりくるふかよあるものを

さゝの山 摂津

同

万十二

ゆふさり山 伯耆

よろづ人もとめ

万十七

さつき山うの花すてしあるよをこそとりていもねぬ

さゝの山 伯耆国 五月五日

人麿

万十八 春日

さゝの山 山城 相模郡

月もいでぬ鴨なくなる山もとの桜の花のもとつゆ

よろづ人もとめ

万三

あさぎりの朝霧 たちのぼる山城 相模郡 山のまもとの山のまにあれて

さゝつさ山 紀伊

赤人

万十

ほとゝぎすなくなる神奈川のさつき月山のさゝてるくも

さゝれつの山 西名作くれ 之江又丹後

家集

994

[illegible]代の子式[illegible]

さくら

[illegible]さに野[illegible]

[illegible]山 因幡守の文永年中 西暦二年一百首

[illegible]

[illegible]山の雪[illegible]

[illegible]山 小竹生 [illegible]

[illegible]山の[illegible]

[illegible]山 [illegible] 大蔵 [illegible]

能宣卿

[illegible]也

[illegible]の山

[illegible]中納言 [illegible]

[illegible]虫

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雜

[illegible]人麿

[illegible]ひの中山 [illegible]陽山といふことを

大納言經信卿

[illegible]の[illegible]ひの中山

[illegible]

[illegible]

[illegible]

百十二

恋衣きるれのしのよなくゆるゆるしまくは

洞院摂政家百首　経二位家隆卿

恋ゆえ思ひそめしの山の名をたれかはいはん

きぬぐ山　俗名三百六十首中

みてこりしきぬぐ山ぞ人わすれせぬ君にあふてを

恋歌

みちのくにきぬぐ山ぞとまるとは言はまほしかり

きぬ山　義孝　部ふ和

大宰帥大伴旅人

いはなりいきの山のあいはいかりしかりいとしかりしかりいとしかりしかり

きぬ山　山城　文治三年十月五日歌合

つ

恋

恋ゆえの山　俗名

つれなきとの数よりつれなきとの数よりつれなきとの数よりつ

9919

ゆきの山 花山院 和歌

雪系 雪系山杉代

為中納言定房卿

雪の山 雪の山 雪の山 雪の山 雪の山 雪の山 雪の山 雪の山

ゆきの

[illegible]

[illegible]

[illegible]

999

かすとしさやうにみてさしてやみこのみこの月つけ　民部卿為家

百首の中　藤原為氏

雲間すむ秋をふりのあらるみこ山つるの神とあられもこそ

みさ山　三笠山　みかさ山　安永蟲丸

あすまくらみさの山に高くこそ月のつてこしたふけつ

同

ちはやぶるみさの山をひよりはそ石ほのおとのさやさ

永保三年十月御子内大臣家歌合

源俊頼朝臣

こゑ山　ほそ　石ほのおとのさやさ

恋

ちはやぶるこ山の石のよりてさやうにすりたるのよ

大納言公任

月

神祇

玉神祇

こゑ山　こゑ山　みつのさやま

月歌中

神祇部中

ちはやぶるこ山の石の積りもみさの山てくるこゑ

九条右大臣女

月

ちはやぶるこ山の積りもみてしかりていつる月つけ

光信朝臣

三笠山　三笠山　みかさ山

四一

みかさ山をこゑ山にかくすつるたるもこゑ山あるもんこゑさ

遠忠八年百首内合　第六組　左勝

1000

[illegible]

[illegible]

[illegible]

1001

[illegible]の山 [illegible]部の和 [illegible]人[illegible]

[illegible]

[illegible]の山 [illegible]尾 月 月

[illegible]の山の[illegible]門を見まして[illegible]

みすの山 [illegible] 第六信西の[illegible]

かくへと耳成山のかくれひとことすゝちこそすれ

[illegible]の山 耳我 大和 長歌

[illegible]

みのゝ[illegible]の山 [illegible]

みつのの山 [illegible] 大和 [illegible]

[illegible]

[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]

[illegible]

澄源法師

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]の[illegible]の[illegible]の

1002

催馬樂

東代

この山よ河よ世ゆさゆ

百首

注二位為家

新拾冬　やま

北屋云

この山の高く玉椿いつ

源富法師

山

みちさにあり世ゆ

東代

東代

この山はつねなき中よ

実方朝臣

水ながれのうきのこれゆゑこの山の花をたづねん

三字

はかりの人の世よしく

文やりそれもあるの世さりそれいよそゆり

実方朝臣

みちのく山奥家集

三字

はかりの人の世なつかしのそてや白雲の

三字

はかりの人の原をそ年十一月廉信社よりうて

道をさすに良よあらて雲の

道

はかりの山の月のたみそ侍いらつみ

くもりなん侍るかるとりれいらるにくる

霧よ野ひとそてようるとろく

三尾

こわ山をいとは

風の雲

1003

新勅賀

河内ふるさとの山のりさかの家にかたらん

ふるさと山 見業記 之紀中 建长八年百首の合

光俊卿

ゆきこそてみねのうすくもやまのはるかすみたちそめにけり

みのお山 業平 家集 鴨長明

みのおやまのこけつたふ岩のしたにもたまちるはなの

落ちつもるさくらのおのすすきはるかぜのふきわたるかな

ますの山 紀伊 家集 ますのへのやまのやまの

まつ代にまつ人

雲行上人

まちさはるやまのはるかぜよりあらはすれたすのしるせ

みすのの山 家集 ふるさと人 ふるさと

やまさとのしのはらにたちそめにけるかすみのしたはつゆ

こやさと山 武蔵 家集 中務卿のみこ

池ゆたまつまこうはしこやたのやまのはしさしく雪のうつり

山

かぜにたまるはつ

あとしのいそのうちのさとにふりてそやさとにはるかすみ

ふるさと山 家集 惠慶法師

1004

われのくやうめのいなくとあるをみてよりこふよりてをこと

みなのうら山　見る関　郡　家　弓　制　皇子

万九　うけむ　うふみなのうら山の名をいはらるのくるしれかりおとせる

月

万十　ますかのをみなのうら山いそのもるをまつ家をとをそれをふちるん

万十四　をうこけのみるもの山のこのしをすもうくうろつかうけとをむ

下　昇

おうの山　淡賀志賀　とを

月

万十六　おうの山いそかをうそあるをうるのの山とみるを

ろに　さく源や志賀の山ぬのつらうるをうるをそれや嶺

月

東歌　かをの立　首　の合　春原通　稀　名

をうの浦のををへも雪ふるのをれくをみちたしぬ人をうのの

おうの山　伝文　貫　百首　今　出　遠

人をれをうをひ　弘　人　の　山　をうをうをて　ら　を　の

おと　河　百首

隆　絶　ると

人をうをうをひの　を　ぬ　をうをうをいをすをの　の　山　を　ら

おうを　山　を　を　の　連黒　る　市　を　人

万三　おうを　山　ら　ら　れ　ら　ぬ　の　の　を　ら　ら　ら　の　し　舟　ま

秋　中

源　修　皇　弟　卜

1005

[illegible]

[illegible]山白之良 加賀 [illegible]

[illegible]山の宮[illegible]

新勅宮二十兼盛集

[illegible]

[illegible]

[illegible]

1006

題不知　作者

[illegible]

建長八年百首の合　法眼衆門左

梅の花の色乃[illegible]

[illegible]山　後の[illegible]

[illegible]

錦ゆ[illegible]山の[illegible]

永久四年百首　藤原定房

[illegible]山の[illegible]

[illegible]山　[illegible]

[illegible]

[illegible]山　後の[illegible]

[illegible]山　千五百番の合

[illegible]

新続古今

[illegible]

[illegible]

[illegible]

遠江八幸百首の合 左 中納言定家卿

ちかのの山さしのぼりそめしかなうつるの野辺の

夏草

雲ゐはるかなるこのうち色もあるみなとの山のこすえ

和泉式部

郭公 東塵秘抄

ようこそ人もとづれず

ひとすじにたゆまぬ山の名はたかくかすみさしそふかの山むろ

ゆうしき飯山すくのたまもかる稲いまの山

たこの山 紀伊歌集

西行上人

雲鳥

くもとりやたこの山ちはさてをとりうのさしうあか

たつつき山 白月 義安立年三月三日歌合

この合撰相即花

清輔朝臣

卯花のさかりの浦ほやひさかたの月山のみねうつ

歌集

左京大夫顕輔

卯ことすは飛ぶたつやまの山もたつさ山の雪の

たつ雲山 大嘗会悠紀方四屏風 左

第中納言通方

時しるのたつた山のさくらはなちりてのこれる

たつ山

円

たつたのの山ぶきのはるのもゆるかなたれ

二月十八日 永義四年大嘗会悠紀方四屏風

1008

二字ケ

よ世間ものふる梅のむさうりよさろうに

稚人のあるかとろく

ちまき山 繁 新中 百首　　お大病そ申家に

ちけ山のうつ丈ひろりかのみて来のうすにあらしのくち

丈年

ちくひ山 下稿 本和 ちく人ちくす

ちくひ山 ちくたくめよみしすちくひ山ちくり水のくるさん

ひきての山 引 本和 紅葉を陸奥人歌ちに

くれるのみよりくるみゆかふて毎ちのひきての山の峯

深

桂宮新侍百首　　坂九象門宮

あつさちひきての山のやまのかりふにちに家ちおきていたん

人丸

ちふ知

一カ二

あしまちのひきての山よ妹とおきてゆちに紅けいそりもほ

ひえの山 比叡　　ちく人ちくす

六二

昔 ちかてよちてひえの山ちころいはるめ

ひう山 ちに 弘安日吉一品経年

大宰帥経任に

日ち山やまちす弥の詠ちられてそりぬけ世ちてうん

弘安四年毎日百首中 民部卿

日吉山ひちの少松のいちきたいやたちうんちの代の和 ちろ

ひう山 ちに 嘉元年 ちに 家年集　　安法ち師

家ちやふ〻ひ〻のこゑやまのをのふゆゆふけまくすゑの白雲

ひ〻の峯山を　家集雲式

はるかぜ　堂ちゝ入道二品のうた

そんのりあさわらこゑのやまとに初雪ふれるひ〻のたをやま

家集　信実朝臣

都やてさしいさゝみゆゆ岸しのひ〻ぬ峯山雪ふりまさる

ひ〻の峯山中書王親王家の合　河内

はるかぜ　拾遺四五番

あふこちやかりあるとはなにをしひ〻のたかまつ河内

ひ〻の峯山を　遠長八年百首の合

家信卿

岸高さひ〻の峯山いりひくなりあるやさらん

ひ〻のこゑ山を　服長　光仁院入道二品親王家五十首

はるかぜ　後二位家隆卿

はるかぜひ〻の峯山の杜月あらはなをとりやいせん

ひ〻の山を　弁乳母

大納言経信卿

ひ〻のあさねさ門とさしとやへの雲井よ西こひめ

弁乳母

武蔵国ひ〻の山の名白ゆいをとられて志うそうし

はこ二首の歌云あるこのひらまとつて西りて
観音験おとてくのいこまつのしる
大大寺通俊ようさそこれてまつり行て帰りて
弁乳母よりいひやり行ちとこく
ひとりの山 久和 ふこ宝 家業 寛仁法親王

桑門
秋をすこ何と河内のそらつ人ひとりの山 ひとりの業
ひとりの山 右撰 家業 相撰
さてとしひとりの山 新しも月はめとあこふとみてさ
ひとりの山 日光 後中 西意大臺寺

大蔵卿隆時

世宗ちうちうの山 ひとりの山 春 一陽 山城 或 大和
桜のこ秋すさ夜のひとりの山 ひとりの山 家隆
鄭ふ和
万四 郭公いこ〜をあすひとりの山 ひとりの山 大和 建久八年一百首の合
ひとりの山

俊九条内大臣

むさうりのふ色とうとかのりとにこれ目ろもの山 嵐
はこ 判ふ和 家 ひとりの山みるれと
ふあうまてこゆとこ

1011

[illegible]山 寺名 百首 注二位 [illegible]

[illegible]神 いろこい [illegible] 山の松 [illegible]

遠代 三十九 西百首 注二位 [illegible]

[illegible]山の [illegible] 中納言 匡房

[illegible]山 [illegible] 山 [illegible] 方 [illegible] 社

[illegible]山 [illegible] 山 [illegible]

[illegible]山 [illegible] 山 [illegible]

[illegible]山 [illegible] 拾遺 [illegible]

[illegible]山 [illegible] 月 [illegible]

遠代 八十百首 [illegible] 光俊 [illegible]

[illegible]山 [illegible] 判 [illegible]

[illegible]山 [illegible] 山

[illegible]山 上野 [illegible] 拾遺

[illegible]山 [illegible] 中納言 [illegible]

[illegible]山 [illegible]

拾遺ひろ山 陸奥

六三

ふんてて山りゝぬゝとそ
とゝちの山 常陸 西院二条千百首

ゝとしの山

歌合十月十日 北条山の紅葉

神無月とゝち山のもゝちの紅葉

千五百番の合

あきはゝ紅葉山ゝらゝゆけいゝのとろ哀いろ

せきのとゝ山 伊勢 ゝ人ゝ

法橋弘伯

ゝとゝ山 伊勢 ゝ人ゝ

六二五

六四〇

1012

ゝゝ

ゝゝとゝる山 伊勢 ちの

ゝ集

拾遺山ゝるの中 ゝ集

如月後の女

小馬 命婦

玉葉三

ゝゝ山とゝぬゝ

ゝ新ゝ

ゝゝ人ゝ

拾遺山 伊勢 ゝ西門さ

1013

藤原為氏卿

みち柳てさゝ雨ふるすゝ山あつきの門の浪とまやか
はゝ木一ハ伊勢より後ハ名所ハ
て後うゝ人の為ものよきとうゝ詠歌山ハあつき
の歌のゆよきとゝ
すゝ山山路ゆふ知　よゝ人まつす

人まちと為氏のゝゝすゝ山これかりあゝりぬとや
末の松山隔夏　藤原家集　相模
あゝ波のうゝあハやいはゝんすゝの松やて浦ゝゝも
入道関白歌合に岸風末の松山

あゝゝのひんあるすゝの松山いつよゝゝもせうん
洞院摂政家百首　晴地　後鳥羽院
浪ゝうゝやすや杖のこしぬゝんゝやゝうゝ世すゝの松山
仁安二年三月清盛卿長家卿合海辺霞

浪ゝ後松山々
はゝの判　京極　すゝの松山の奇いゝゝあゝく
物ゝに海のゝゝりの霞ゝいゝゝゝゝゝゝゝゝ
すのゝゝゝの松山いゝとに波のゝゝゝゝゝ

三十九

山より遠よのきくら海の浪は山の景
ゆりはこされてこゆるやうなみゆるこされい
そのかいなりたや中まもるさつとよもれ
こまの山よりこうるこよたてる霞よこそ
人もあり志ゝとちく沼中納言の家よす
の杉山なこさい景のそつ色さし色こそ
すれとよまれこまれをひらこと引い
まもとりさく人を物りもうそこうるる
ぬとこゝ

すそまの山 次後撰麻紙中 逢坂八年百首の合

谷の戸ハタ雪ふかさしてあさ夜すそまの山の時鳥なく

紙中四二上山よて作者

光俊卿

中納言家物合

すあ神のすそ風の山が志風谷のさゝ竹ありよあされきよ

ゆゝ白波りゆるさゝよみちゆるちかの

すゑの山 次加紙中 部ふ和

五十七

人ハゆゝしこゝまもるくすゑの山さゝ竹ゝ芝風ものやまゝん

柿本新撰百首

後九条内大臣

白糸のすゝ丸ゝ芝ふ山の月まつとゝるゝ和ゝけてゝゝ長ゝ

現存六

四条

衣笠内大臣

春の花日ごとかなるさすらゆ山ゆ人のあるあなむの色は

すがの山伊勢のうらしふ知　為家卿

鶯の花の薄色ゆくくれの春ゆ山ゆ雲ゆ

歌集の為秋

秋風を枕の波よきくくへてさそれ給ふをすまの中山

夫木和歌抄巻第二十終